



## アストンマーティン Vantage、ニュルブルクリンク 出場 20 周年にして初の総合表彰台を獲得

- Vantage、2026 ADAC RAVENOL ニュルブルクリンク 24 時間レースで総合 3 位を獲得
- Walkenhorst Motorsport とワークスドライバーのマッティア・ドゥルディ、クリスチャン・クログネス、ニッキ・ティームがアストンマーティンの『ニュル』最高記録を達成
- アストンマーティンは今回でニュルブルクリンクにおいて 34 度目のクラス表彰台を獲得
- 過酷なレースでの卓越したパフォーマンスで、アストンマーティンのニュルブルクリンク 24 時間出場 20 周年を祝福



2026 年 5 月 17 日:

週末、英国のウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンの最も成功を収めているレーシングカー Vantage が、第 54 回 ADAC RAVENOL ニュルブルクリンク 24 時間レースにて過去最高の 3 位でフィニッシュしました。

その過酷さから「グリーン・ヘル（緑の地獄）」として知られる、ドイツ・アイフェル地方の山岳地帯に延びる 15.8 マイルのコースで 24 時間にわたって繰り広げられるニュルブルクリンク 24 時間に初参戦してから、アストンマーティンは今年で 20 周年を迎えます。この記念すべき年に、アストンマーティンとワークスドライバーのマッティア・ドゥルディ（イタリア）、クリスチャン・クログネス（ノルウェー）、ニッキ・ティーム（デンマーク）は Walkenhorst Motorsport の Vantage GT3 で、モータースポーツにおいてほぼ間違いなく最も厳しい耐久レースで、総合 3 位を獲得しました。

これは、アストンマーティンにとっても、2018 年のスパ 24 時間レースに優勝したドイツの Walkenhorst Motorsport にとっても、ニュルブルクリンク 24 時間初の表彰台獲得という新記録達成です。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは次のように述べています。「これは素晴らしい結果です。ニュルブルクリンク 24 時間以上にレーシングカーの実力を厳しく試せる場はなく、Vantage はその試練に見事に応えました。このような成果を上げるために必要な尽力、周到な準備、高い技術力を考えると、Walkenhorst Motorsport とアストンマーティン・レーシングの全員には当然の結果であったと思います」

「24 時間にわたって表彰台争いに加わり、レース上位の有力優勝候補に名を連ねたことは、Vantage の由緒正しい血統を改めて浮き彫りにしています。来月のル・マン 24 時間とスパ 24 時間のさらなる大きな可能性に向かう中、最高の形での夏の幕開けとなりました」

Walkenhorst Motorsport の 34 号車 Vantage が出場する SP9 クラスは、40 台以上の GT3 がエントリーし、今年は 4 度 F1 ワールドチャンピオンに輝いたマックス・フェルスタッペンが参戦することでメディアの注目を集めていました。SP9 Pro クラスの予選ではドゥルディとクログネスがトップ・クオリファイにおいてそれぞれ 1 位と 2 位を獲得する活躍を見せ、最終的にティームがトップ・クオリファイ 3 で 161 台中 11 番手と、まずまずの位置を確保しました。

ニュルブルクリンク 24 時間は開始後直後に混沌とした状態になることで知られるため、Walkenhorst は他のほとんどのチームより早い戦略的なピットストップで燃料計画を 2 周分ずらしました。そのおかげでティームはアンダーカットによって順位を上げ、上位 5 台に入りました。この位置で、アストンマーティンはレースの残りを走ります。珍しく低い気温（3° C～5° C）がピレリのタイヤに有利に働いたことも、好調に貢献しました。

最初のティームのダブルスティントが終わると、続くクログネスは Vantage を 2 番手に上げ、ドゥルディに交代しました。ドゥルディはレース中に断続的に降った最初の雨に見舞われますが、いつも通りに落ち着いて対応し、40 秒のリードを積み上げました。

有力候補の数台が離脱を余儀なくされた困難で混沌とした夜の時間帯、先頭集団の戦略が代わる代わる功を奏し、Walkenhorstの3名は先頭の2台のメルセデスの後ろで3位を巡ってランボルギーニとBMWと三つ巴を展開していました。残り2時間を切った時点でフェルスタッペンのマシンがトラブルに遭遇し、3位争いはそのまま2位争いになります。

輝かしい表彰台獲得のゴールを任されたドウルディは、2番手のランボルギーニとの2分以上の差を縮めていきました。ランボルギーニがコード60違反で86秒のペナルティを課せられると、インターミディエイトタイヤで再び滑りやすい路面を走るドウルディは2番手に攻め上げていきましたが、無情にもコード60違反で希望を打ち砕かれることになりました。デッティンガー・ヘーエのストレートでゴール間近にあったドウルディは最終ラップで後れを取ることになり、3位でフィニッシュしました。

今年既にFIA世界耐久選手権とIMSАウェザーテック・スポーツカー選手権で表彰台を獲得し、チームと共にポール・リカールで開催されたGTワールドチャレンジ・ヨーロッパ開幕戦でも優勝を果たしたドウルディは次のように述べています。「2位でフィニッシュできなかったことに歯がゆい思いでした。ですが、アストンマーティンのニュルブルクリンク初の表彰台フィニッシュはとても誇りに思っていると思います。そもそも非常に過酷なトラックであるところに雨と熾烈な競争で、とても困難なレースでした。最終スティントでは、ランボルギーニを追い越せると確信していたので攻めなければならなかったのですが、最後のコード60は残念でした。それでも、これは自分にとって一生忘れられないものになると思います」

アストンマーティンは、ニュルブルクリンクで60年以上にわたり勝利してきた伝統があります。1950年代、サー・スターリング・モスがアストンマーティンで1000kmレースの3年連続優勝のハットトリックを達成し、1959年の優勝は世界スポーツカー選手権のタイトル獲得にもつながりました。同年、アストンマーティンのDBR1はル・マン24時間でも有名な総合優勝を果たしています。

2000年代半ばにスポーツカー競技に復帰して以来、アストンマーティンはワークスチームや信頼するパートナーチームによりニュルブルクリンク24時間の常連となっています。2006年からはVantageの各世代合わせて10のクラス優勝と30以上の表彰台獲得を果たしています

2024年に世界最高峰のGT3レースであるスパ・フランコルシャン24時間レースを制したVantage GT3は、ウルトラ・ラグジュアリーなロードカーのVantageと同じメカニカルアーキテクチャを採用し、アストンマーティンの実績ある接合アルミシャシーを中心に組み立てられ、強力な4.0リッターV8ツインターボエンジンを搭載しています。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-bQEAX6VnHinku3qq>

## アストンマーティン・ラゴндаについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、**Vantage**、**DB12**、**Vanquish**、**DBX707**に加え、同社初のハイパーカーである**Valkyrie**など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、**Racing. Green.**サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブトレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

[astonmartin-pr@pjbc.co.jp](mailto:astonmartin-pr@pjbc.co.jp)